

庁内へのフィードバック内容		フィードバック後の方向性・取組状況			
委員の意見	今後における事業実施の際に留意すべき事項	留意すべき事項に対する方向性	方向性に関連する文化事業（抜粋）	方向性に関する取組状況	
			（事業No.）事業名		
1 【親子で参加できる文化事業について】 アートスタート事業のような <b>乳幼児と一緒に参加できる</b> 本格的なコンサートはあまりなく、是非 <b>継続してほしい</b> 。	ステージイベントにおいて、乳幼児がいる家庭でも参加しやすく、一緒に楽しめる内容となるよう努める。  例: ベビーカースペースの確保、導線のバリアフリー化	乳幼児がいる家族でも出入りしやすい、気兼ねなく参加いただける <b>コンサートの継続と拡充</b> を図る。	(11) アートスタート事業	R7: 乳幼児が本格的な芸術に触れられる事業として、クリアホール展示ホールにてコンサートを実施した。 R8: より多くの方に参加いただけるよう、会場をアミカホールへと移すことで <b>定員の拡充</b> を図り、 <b>継続的に実施</b> する。	
			(20) アートフェスタくさつ	R7: こどもや若者を中心にアートを楽しめるイベントとして実施しており、主として就園児以上を対象としたワークショップを多数実施したが、アンケートの中では <b>未就園児向けのプログラムの拡充を求める意見があった</b> 。 R8: アンケート結果からもニーズがあることや、授乳室や休憩室があり未就園児を連れて参加しやすく設備の整った市役所エリアが会場であることを踏まえ、 <b>乳幼児も含めた親子連れが気軽に楽しめるミニコンサート</b> を、会場の一部であるアミカホールを活用し実施するよう検討していく。	
2 【若手アーティストの育成と地域の文化振興について】 文化講座等では参加費を高くできないこともあり、 <b>講師料はほとんどボランティアのような金額</b> でお願いせざるを得ない。 また、講師として <b>若手アーティスト</b> に経験を積んでもらえれば地域の文化の向上にもつながる。	講師料については社会情勢との均衡を考慮し、適正な金額となるよう留意する。 また、可能な範囲で若手アーティストを起用する。  例: 文化講座等に関連する専門学校の学生との協働	社会情勢や受益者負担との均衡を踏まえながら、適正な講師謝礼を検討していく。 また、活躍の場を求める <b>若手アーティストを講師やアシスタントに迎え講師としてのスキルアップの場も創出</b> する。	(18) アートスクール (R7-文化芸術担い手育成事業)	R7: 合唱分野では講座の講師として <b>若手人材を起用</b> したほか、創作分野（水彩画、立体講座）ではアシスタントとして <b>芸術系学校の学生や卒業生を迎え、若手人材の講師としての活躍の場、将来講師となり得る人材育成の場</b> ともなった。 R8: R7と同様に、講座の講師やアシスタントに <b>若手人材の起用</b> を可能な範囲で行っていく。	
			(26) 文化教養講座	R7: 障害者福祉センターの指定管理事業として、限られた指定管理料の範囲において事業を実施した。 R8: R9からの指定管理の更新に向けて、 <b>事業の運用や在り方の検討</b> 、それに伴う <b>指定管理料の見直し</b> を行っていく。	
3 【こども向けの文化体験講座について】 こどもは色々なことに興味があるので、同じ内容の講座を連続で行うより、 <b>様々な内容の講座を1回ずつ行い、関心の強いと感じる講座を選択</b> できるようにするとよい。	こどもを対象とする講座等を企画する際に可能な範囲で多様な内容の講座を取り入れる。その後、選択できるような形態を検討する。  例: アートセンター等の中 間支援団体との連携	こどもが幅広い文化芸術の中から <b>特に自身の興味関心の強い分野を選択</b> するきっかけとなるよう、特定の一種類に限らず <b>多様な種類の文化に触れられる事業を展開</b> する。	(22) クリア舞台芸術学校	R7: 創作ミュージカル出演に向けた練習の他、箏や打楽器、日本舞踊など、 <b>舞台芸術全般にかかわる所作や技術を幅広く学ぶ場</b> ともなるよう実施した。 R8: R7と同様に舞台芸術全般を学ぶ場としながら、 <b>幅広い分野から特に関心のある分野を受講生自身が選択</b> できるようにしていく。	
			(24) こども芸術鑑賞応援制度	R7: 合唱や吹奏楽、オーケストラなどの <b>コンサート、落語、ミュージカルの3種類の公演を対象</b> として、ひとり親家庭に対し募集を行い、8組17名を招待した。 R8: 鑑賞の機会を持ちづらいこどもたちが複数の分野から選択して舞台芸術を鑑賞することで、興味関心を持つきっかけとなり得ることから、R7と同様に、コンサートや伝統芸能、ミュージカルなどの <b>多様な種類の公演を可能な範囲で対象としていく</b> 。	
4 【文化の担い手育成について】 文化講座を何回か体験しても、それだけで終わってしまう。文化を育むためには、 <b>いかに継続していける環境を整えるか</b> が重要である。	文化講座を開催する際には、受講者がその後の継続的な活動ができるようフォローを行う。  例 地域の自主教室の紹介、展覧会等の発表できる場の紹介	継続を促すため、 <b>講座の成果発表の機会を設ける</b> とともに、地域の自主教室や、活動場所となる施設（文化ホールなど）を紹介するなど、 <b>講座後の継続的な活動が可能となるよう積極的に情報提供を行う</b> 。	(18) アートスクール (R7-文化芸術担い手育成事業)	R7: 受講者数の実績は立体10名、水彩画17名、箏11名、混声合唱33名であり、草津市芸術祭の中で <b>作品展示</b> （立体15点、水彩画16点）、 <b>舞台発表</b> （箏11名、混声合唱30名）を行った。 講座終了後の活動については、水彩画分野で <b>4名の自主サークルが出来上がった</b> ほか、箏では <b>2名の受講生が継続を検討</b> されている。 R8: R7と同様に <b>成果発表の場を設ける</b> とともに、講座の難易度や回数に関する受講者からの意見を踏まえて内容を改善し、 <b>継続意欲の高まるさらに魅力的な講座を実施</b> していく。 また、身近な場所での講座開催に一定のニーズがあった一方、講座後の活動場所を市内で探すことが困難との意見があったことから、 <b>市内の貸館施設や地域まちづくりセンターの自主教室についてより積極的に情報提供を行う</b> 。	
			(26) 文化教養講座	R7: 芸術系の講座（絵てがみ、いきいきアート、楽しい絵遊び、楽しい美術、陶芸）については、講座内での単なる体験のみで終わらないよう、2月に障害者福祉センターにて <b>作品展示を実施し、成果発表の場を設けた</b> 。 R8: R7と同様に、絵てがみや絵画、陶芸といった芸術系の講座においては <b>作品展示を実施</b> するなど、 <b>成果発表の場を設ける</b> 。	